

KAC Performing Arts Program 2017
国際共同製作

RE/PLAY Dance Edit

出演者募集



フノンペン公演 Photo by Kong Vol1ak

京都芸術センターでは、2017年11月に『RE/PLAY Dance Edit』を開催します。

この作品は、演出家の多田淳之介率いる東京デスロックが2011年に発表した演劇作品『再／生』のダンスバージョンであり、2012年2月、ダンサー・振付家のきたまりディレクションによる「We dance 京都2012」にて初演しました。以降、横浜・シンガポール・フノンペンにて、アジア各国のダンサーとリクリエーションを重ねています。

繰り返されるポップ・ミュージック、踊り続けるダンサーの疲弊していく身体。暴力的なまでに強靱な構造のもと、ひたすらに踊る出演者それぞれの身体性やバックグラウンドが露わとなり、観客を引き付けてきた話題作です。

今回は、新たに京都にて、シンガポール、カンボジアのダンサーとともに本作の振付を創作し、出演する振付家やダンサーを募集します。キャリア・年齢・経験してきたダンスジャンルは問いません。奮ってご応募ください。

【募集期間】

2017年4月10日(月) - 5月5日(金・祝) ※必着

【募集対象】

・全日程参加可能な振付家、ダンサー

※ダンスのジャンル・キャリア・年齢は不問

・11月17日(木)から11月24日(金)のクリエイション(於:京都芸術センター スケジュールは相談の上調整)に参加し、11月25日(土)、26日(日)のショーイング(全日程)に出演できる方

【オーディション】

日程:2017年5月8日(月)～10日(水) ※各120分

第1次: ①5月8日(月) 16:00-18:00

②5月8日(月) 19:00-21:00

③5月9日(火) 11:00-13:00

④5月9日(火) 14:00-16:00

第2次: 5月10日(水) 13:00-15:00

会場:京都芸術センター 講堂

参加費:無料

選考:多田淳之介(演出家)、きたまり(振付家・ダンサー)

【応募方法】

① 規定の応募用紙(pdfもしくは word ファイル)を添付し、京都芸術センター(tani@kac.or.jp)までお送りください。

※件名を『RE/PLAY Dance Edit』応募』としてください。

※※ファイルに不備があった場合に備えて、メール本文にお名前、ご連絡先を必ずご記入ください。

② 書類選考のうえ5月7日(日)までに、全応募者に第1次オーディション参加の可否を通知します。

【特記事項など】

出演にあたり、チケットノルマや参加費はありません。

出演謝礼の支給を予定しています。

募集対象以外の方のご応募はお受けできませんのでご了承ください。

【公演概要】

日程:2017年11月25日(土)・26日(日) ※クリエイション:11月17日(金)-24日(金)予定

会場:京都芸術センター 講堂

演出:多田淳之介/振付・出演:シンガポール・カンボジア・日本のダンサー(オーディション選出他)

主催:京都芸術センター、NPO 法人 Offsite Dance Project、RE/PLAY Dance Edit 実行委員会

助成:国際交流基金アジアセンター、公益財団法人アサヒグループ芸術文化財団

【お問合せ】

京都芸術センター(担当:谷、當間)

Tel : 075-213-1000/E-mail : tani@kac.or.jp

+ 演出家からのメッセージ

『RE/PLAY Dance Edit』は2012年に開催された「We dance 京都 2012」の「演劇とダンス／身体性の交換」というプログラムで京都のダンサー達と創った作品です。下敷きになっている『再／生』という演劇作品は、分断、断絶、繰り返せない生を取り扱った作品で、京都初演のクリエイションを経て「踊る／踊らない」という“Dance Edit”の核となる新たなボーダーが加わりました。

その後、関東のダンサー達と横浜で上演し、京都と横浜に参加したダンサーとシンガポールで現地ダンサーと一緒に上演し、さらに2017年3月、このメッセージを書いている今はカンボジアで日本人と現地のダンサー達とクリエイションの最中です。気が付けば演劇／ダンスというボーダーから始まったこの作品は、すっかりボーダーレスな上演を続ける作品になっていました。

演劇／ダンスというボーダーは今はほとんど意識していません。俳優と創るかダンサーと創るかの違いだけです。それは人を見せるのか身体を見せるのかの違いとも言えます。“Dance Edit”では人と身体の間を行き来する手段としてダンスがあります。そしてその構造、人だとか身体だとかを超えられるのもダンスだと思っています。クリエイションでは各自が自分の身体、ダンスと向き合い、振り付けも各自で考えてもらいます。ボーダーを無くすのではなく、ボーダーを抱えたままどこまでも行く作品です。

5年前の京都で、ダンサー達と身体について、ダンスについて試行錯誤を重ね、彼らの身体とダンスに魅了され生まれた作品を、再び京都で創るのをとても楽しみにしています。そして今回の上演にも海外上演に参加した各国のダンサーが参加します。身体もバックグラウンドも私たちは違うという前提から、アジアの身体、ダンスを作りたいと思います。

多田淳之介 (2017/3/19)

+ プロフィール



多田淳之介

1976年生まれ。2001年から「東京デスロック」を主宰。俳優の身体、観客、劇場空間を含めた、現前＝現象にフォーカスした演劇作品を発表。既成の演劇の枠組みに囚われない演出方法は、公演毎に話題を呼び、国内外の公演、共同制作、ワークショップ等多数。2010年から富士見市民文化会館キラリ☆ふじみの芸術監督に就任。2013年に日韓共同製作作品『カルメギ』に於いて韓国で最も権威のある東亜演劇賞演出賞を外国人として初受賞。



きたまり

1983年生まれ。舞踏家・由良部正美の元で踊り始め、2002年からソロ活動を開始。2003年「KIKIKIKIKIKI」設立。2008年トヨタ・コレオグラフィーアワードにてオーディエンス賞受賞、2010年横浜ダンスコレクションのグランプリを受賞。近年はダンサーとして故・黒沢美香、木ノ下歌舞伎などの公演に出演。また、ダンスシーンの活性化と舞台芸術の可能性の広がりを目指し、2013年「Dance Fanfare Kyoto」を立ち上げる。2016年『夜の歌』で、「平成28年度文化庁芸術祭賞」舞踊部門の新人賞を受賞。

+ 参考 URL

国際共同製作『RE/PLAY Dance Edit』特設サイト

<http://www.wedance.jp/replay/>

京都芸術センター『RE/PLAY Dance Edit ワークショップオーディション』イベントページ

<http://www.kac.or.jp/events/21070/>